

あとがき

2021年度全学共通カリキュラム運営センター総合系科目構想・運営チームリーダー／ 文学部教授 後藤 雅知

昨年度から今年度にかけて、千葉県大多喜町の小内区（かつての上総国夷隅郡小内村）において、未整理古文書の調査・整理を行った。数回にわたって現地の公民館を訪れ、古文書の封筒詰めから目録作成、さらには写真撮影まで行い、全部で600点弱の史料を確認できた。その後、小内区の個人宅からも数点の古文書が見つかり、それについても調査させていただいた。すぐ隣の笛倉区（上総国夷隅郡笛倉村）に残された古文書を使って、かつて論文を書いた経験はあるが、その隣村の調査に入るのに15年以上もかかってしまった。現地調査は遅々として進まず、である。小内区に残された古文書それだけでは論文を書くのに足りないが、改めて笛倉区の史料と付き合わせて検討すると、両村の関係性が多少は明らかになるのではないかと思っている。

小内区の文書の中に、近世から近代にかけての村絵図がいくつかあった。この絵図をもとに地元の方と小内区を歩くと、絵図に示された村の姿と現在の景観とがほとんど変化していないことがわかった。小内区は笛倉区とは異なり、区内に新たなバイパスなどが通らず、家並や道路の位置が地図とまったく同じである。それゆえに道は狭いのだが、まさにここは、近世の村の景観をほぼそのまま残す歴史遺産ではないかと思う。学生にゼミや講義で江戸時代の村について話すより、まずはここに連れてきて、村の雰囲気を感じてもらう方が史料への理解も深まるのではないかと実感した。しかしこのコロナ禍、そういうことが気軽に実施できない。

さて本号には、今年度で退職される先生方のエッセーが掲載されている。なかでも松山伸一先生は、私が総合チームメンバーを拝命していた際の総合チームリーダーであり、ずいぶんお世話になった。当時、総合系科目担当者連絡会で松山先生が話された、学生向けの食育に関わる授業内容が文章化されていて、懐かしく拝読させていただいた。また須永徳武先生には、全カリとは別の場所で長らくお世話になった。コロナ禍でなければ、きっとそれぞれ何らかの送別会が催され、退職を惜しむ機会もあったのであろうが、これもまた叶わない。早くコロナ自粛から解放されることを願い、そして退職される先生方のご活躍を祈念するばかりである。

ごとう まさとし